

# 海外安全対策情報

2021年1月

## 1 社会・治安情勢

在ハバロフスク日本総領事館の管轄地域の治安は、比較的安定しており、現時点ではクーデターやテロ等、緊急事態発生のおそれはそれほど高くはありません。

しかし、2017年にはハバロフスク市内のロシア連邦保安庁庁舎において銃撃事件が発生しており、さらに2020年には国際的なテロ組織の指示を受け、ハバロフスク市内で爆弾テロを企てていたとして中央アジア出身の男性が逮捕されています。

また、現在はハバロフスク市内中心部においてフルガル前ハバロフスク知事の逮捕に反対する抗議集会、デモ行進が定期的に行われており、関係者や参加者の一部に逮捕者も出ています。

旅行先や滞在地での行動には十分注意することはもちろんのこと、常に最新の情勢把握に努めて下さい。

## 2 一般犯罪の傾向

(1) 犯罪に関する統計によると、当館管轄地域の2019年中の犯罪登録件数は以下のとおりです。

表1	2019年		2018年	2017年
	総数	前年比	総数	総数
ハバロフスク地方	23,940	6.3%	22,509	24,023
ザバイカル地方	23,573	-3.2%	24,341	26,992
イルクーツク州	45,929	2.1%	44,971	46,026
アムール州	19,508	11.2%	17,536	18,505
ユダヤ自治州	3,555	-3%	3,663	3,612
サハ共和国	12,387	3.7%	11,936	12,399
ブリヤート共和国	22,131	-5.9%	23,511	23,610

(2) 犯罪の傾向としては、銃器や刃物等の凶器を使用した路上・屋内強盗や車上狙い、ひったくり、侵入窃盗が依然として多発しており、アパートの出入口付近に潜伏し、出入りする住人を襲う強盗事件も発生しています。

また友人、知人や親族間で飲酒中に喧嘩となり、傷害事件や殺人事件に発展するケースが多く見られます。

このほか、麻薬の密売など薬物犯罪も深刻で、多数発生していることから注意を要します。

(3) 次に、2019年における主な犯罪種別の発生件数を見ると、殺人はおおむね減少傾向ですが、イルクーツク州やアムール州で強姦事件が急増しています。

表2	殺人		強盗		ひったくり等		窃盗		強姦	
	件数	対前年比	件数	対前年比	件数	対前年比	件数	対前年比	件数	対前年比
ハバロフスク地方	138	-8.7%	71	-7%	600	-3.2%	10431	7.8%	30	-42.3%
ザバイカル地方	166	-9.8%	54	-44.3%	391	-15.2%	9528	-9.7%	63	3.3%
イルクーツク州	247	-10%	185	4.5%	1245	-3.3%	19899	11.7%	110	129%
アムール州	120	1.7%	61	33.0%	438	4%	8216	13.6%	33	120%
ユダヤ自治州	27	0%	9	-43.8%	74	-7.5%	1383	-7.2%	6	20%
サハ共和国	106	-4.5%	40	3%	322	3.2%	3745	1%	53	10.4%
ブリヤート共和国	162	-10%	59	9%	589	-18%	9718	-6.1%	35	-10.3%

※ 2019年中における主な犯罪の発生件数。パーセンテージは対前年比。

(4) 邦人にかかる被害事案

○ 2018年8月、邦人男性がシベリア鉄道車内で就寝中に財布を盗まれる被害に遭っています。この種の事案の発生防止のため、①就寝中でも貴重品は肌身離さず身につける。②不特定多数の者が出入りする場所では、必ず貴重品は自分の目が届く場所に置いて管理をする。

○ 2019年4月、車両でロシア国内を旅行していた邦人が警察官2人組から速度違反を犯した旨告げられて、その場で「罰金」と称して高額の現

金を徴収される事案がありました。交通違反の現場において、直接警察官に対して現金を支払うことはありませんので、そのような要求は詐欺でしかありません。（反則金の納付は銀行振り込みで行われます。）しつこく現金を要求される場合は①警察官に身分証明書の提示を求め、ドライブレコーダーやスマートフォン等の録画機能で警察官の官職、氏名を記録するとともに会話や状況を記録して証拠保全に努める。②車両からは降車せずに対話に応じる。③その場で管轄する大使館若しくは総領事館に連絡を取り、その場で現金を渡さない。

- 2019年7月、ハバロフスクを観光で訪れていた邦人女性が、バスから降車する際に後方にいた女性が不必要に身体を密着させてきたことから、不審に思い、降車後に背負っていたリュックサックを確認したところ、チャックが開けられていて、現金、クレジットカード等が在中した財布を盗まれるスリ被害に遭いました。

この種の事案の発生防止のため、① バッグのファスナーを確実に閉めるとともに混雑時にはバッグをお腹に抱えるように持つ。②必要以上に身体を密着してくる者がいる場合は離れる。③貴重品はひとつにまとめずに分けて携行する。

- 2019年9月、イルクーツク市内を観光していた邦人男性が見知らぬ若いロシア人の男から時間を尋ねられ、スマートフォンを取り出して、時間を確認しようとしたところ、突然手からスマートフォンをひたたくられた。ロシア人は、現場から走って逃走した。路上やバー等で話しかけてくる見知らぬ人物には十分注意してください。

万が一、被害に遭った際には、速やかに在外公館及び警察へ通報するようお願いいたします。

### 3 テロ・爆弾事件発生状況

2017年4月ハバロフスク市内ロシア連邦保安庁庁舎において、ネオナチ思想に影響を受けた若者による銃撃事件が発生し死傷者が出ています。

2018年10月、ハバロフスク地方ニコラエフスク・ナ・アムーレでテロ行為を企図した容疑で地元に住む男が逮捕されました。男の自宅からは手製爆弾が押収されています。

2020年7月、ハバロフスク市内でテロを計画していたとして中央アジア出身の男が逮捕されました。男は大勢の市民が集まる場所で爆弾を使用したテロ行為を実行するよう、国際テロ組織から指示を受けていたとされています。

その他、現在のシリア情勢へのロシアの積極的な介入及びヨーロッパを中心に各国でテロ事件が発生していることから、当地でもテロ事件の発生に十分警戒する必要があります。

**4 誘拐・脅迫事件発生状況**

誘拐事件などの発生はありません。

**5 日本企業の安全に関わる諸問題**

日本企業に対する脅迫などの事例は報告されていません。